

内視鏡外科（選択）

研修科	内視鏡外科（選択）
責任者	准教授 上田 和毅
指導医数	4 名
研修期間	8 週間 ～ 12 週間
受入可能人数	1 名
一般目標 (GIO)	内視鏡外科の特性を理解し、消化器各領域における内視鏡外科手術の適応、手術、術前術後管理などを理解、習得する。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内視鏡外科手術の特殊性を理解する。 2. 有用性、短所、偶発症、合併症などを理解する。 3. 検査結果をもとに治療計画を立案し、その適応について指導とともに判断する。 4. 手術において、指導医の元に鏡手、助手を経験し、各疾患における解剖や手術手順を理解するとともに、使用機器（デバイスなど）の適切な使用法を理解する。 5. 縫合・結紮・切開など基本的な外科手技を習得する。 6. 内視鏡外科チームの一員として、他職種との連携を行う。 7. 内視鏡外科手術を理解した上で、患者や家族への説明や接し方、コミュニケーションスキルを指導とともに学ぶ。

<p>方略 (LS)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導医とともに、病棟診察・管理、外来診療にあたる。 2. 特に胃癌、大腸癌、胆石、ヘルニアなどの内視鏡外科手術の適応疾患を担当する。 3. シミュレーションラボでの研修を適宜行なう。 4. カメラ助手、助手として手術に参加し、基本手技や解剖、術式などを取得するとともに、偶発症への対処や危険手技の回避などを理解する。 5. 担当疾患の疾患別カンファレンスや内視鏡外科ビデオカンファレンスに参加し、病態、診断、適応、治療および手技の理解を深める。 6. 経験した症例により院内外の研究会・学会において学術発表を行なうとともに、論文作成も行なうことで、より病態や手術に関する理解を深める。
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価する。 上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <ol style="list-style-type: none"> Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 A-2. 利他的な態度 A-3. 人間性の尊重 A-4. 自らを高める姿勢 Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> B-1. 医学・医療における倫理性 B-2. 医学知識と問題対応能力 B-3. 診療技能と患者ケア B-4. コミュニケーション能力 B-5. チーム医療の実践 B-6. 医療の質と安全の管理 B-7. 社会における医療の実践 B-8. 科学的探究 B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> C-1. 一般外来診療 C-2. 病棟診療
<p>責任者からの一言</p>	<p>内視鏡外科手術は、その低侵襲性から今後ますます増加すると思われる。その特殊性を十分理解するとともに、高度な技術を学ぶことで、安全で質の高い内視鏡外科手術を施行できるとともに、すべての外科手術に応用できる。また、Robot手術などのより最先端な治療に今後かかわる意欲が出るものと思われる。</p>